知るぽると
www.shiruporuto.jp

第52回

おかねの作文コンクール

金融広報中央委員会は
全国の中学生を対象に
「おかねの作文」を募集しています。
みなさんの見たこと、聞いたこと、
感じたことをもとに
「おかね」について考えてみよう。
キミの応募を待ってるよ！

特選５編（賞状と図書カード４万円分）
金融担当大臣賞／文部科学大臣賞／日本銀行総裁賞／日本PTA全国協議会会長賞／金融広報中央委員会会長賞

秀作５編（賞状と図書カード２万円分）

佳作30編（賞状と図書カード３千円分）

学校賞（特選受賞者在籍校）5校（賞状と図書カード１万円分）

★締切★
9月20日
消印有効

〔主催〕金融広報中央委員会　〔後援〕金融庁、文部科学省、日本銀行、公益社団法人日本PTA全国協議会、日本私立中学高等学校連合会

R60 古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

テーマ 自由

テーマ（作文に書く内容）は、「おかね」に関することであれば、どのようなものでも構いません。

テーマを考えるときの参考として、テーマの例を以下に示します。ただし、この中から選ぶ必要はありません。自分が書きたいと思う内容を自由に考えてみてください。

テーマを決めた後、作文の内容にふさわしいタイトル（題）をつけてください。

◆テーマの例

1. 将来の夢の実現とおかねの関わり

あなたの将来の夢は何ですか。やってみたい仕事はありますか。あなたが思い描く未来を実現するために、どのようなことを心がけ、準備をしていったらよいでしょうか。あなたの「将来設計」を、おかねとの関わり方を含めてまとめてみましょう。

2. 私のおかねのルールやわが家の約束事

あなた自身やあなたの家族で決めているおかねについてのルールはありますか。商品を買うときに心がけていること、携帯電話の使い方、お小遣いのルールなど、消費者として行動の基準としている点はどのようなことですか。2022年4月に成年年齢が18歳に引き下げられることも踏まえながら、整理してみましょう。

3. 活きたおかねの使い方とは

おかねを使うと、持っているおかねは減りますが、一方で得られる満足があります。おかねの使い方は、その人の価値観やものの考え方を表すとともに、多少なりとも世の中に影響を与える面を持ちます。買い物や貯金などについての、自分自身の体験や、周囲の人のおかねの上手な使い方について書いてみましょう。

4. ニュースにみるおかね

新聞やテレビ等で報道された、おかねが関わるニュースを取り上げて、あなたが思うことを書いてみましょう。身近な地域、中学校、社会や文化、海外や世界が関係するさまざまなニュースの中で、関心を持ったニュースを探してみましょう。

第52回「おかねの作文」コンクール 募集要項

［応募資格］中学生

［　賞　］●特選 5編（賞状と図書カード4万円分）
金融担当大臣賞/文部科学大臣賞/日本銀行総裁賞/日本PTA全国協議会会長賞/金融広報中央委員会会長賞
●秀作 5編（賞状と図書カード2万円分）
●佳作 30編（賞状と図書カード3千円分）
●学校賞（特選受賞者在籍校）5校（賞状と図書カード1万円分）

［締め切り］2019年9月20日（金）※消印有効

［発　表］12月中旬頃、金融広報中央委員会ホームページ（https://www.shiruporuto.jp/）などで発表。

［送付先］〒102-0074　東京都千代田区九段南1-6-17　5F　毎日企画サービス
金融広報中央委員会コンクール事務局「おかねの作文」コンクール係
※インターネットの専用サイトからも応募できます。下記アドレスに接続し、画面の指示に従って応募フォームにより送信してください。https://www.ron2019.jp/

［問い合わせ先］金融広報中央委員会コンクール事務局　TEL.03-6265-6818（土・日・祝日を除く10時～17時）
金融広報中央委員会コンクール作品募集ホームページ　https://www.ron2019.jp/

作文指導にあたり、先生方から生徒たちへ伝えていただきたいこと。

金融教育は、現実の社会の中で生きていくために必要な金融・経済などの知識や、お金を適切に取り扱う態度を身に付けることなどを目的としています。この金融教育は「生活設計・家計管理」「金融や経済の仕組み」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」の4つの分野に分けて整理することができ、「生きる力」の育成にもつながります。作文を書くにあたっては、生徒たちへ上記のテーマの例などを参考に、身の回りのお金や自分の将来に目を向け、考えたことを書くようご指導ください。

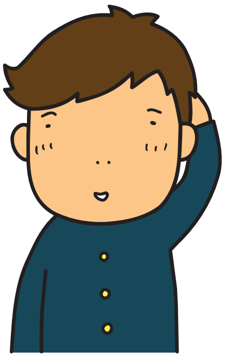
金融広報中央委員会とは？

「金融広報中央委員会」（事務局：日本銀行情報サービス局内）は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、国民に対し中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

あなたは、お金やモノを大切にしていますか？

私たちの回りには、たくさんのモノやサービス、情報があふれています。「豊かな社会」の中で、私たちは本当に必要なものを選択し、使っていくことが大切です。お金の使い方もそうです。適切な判断と行動ができる消費者になるためには、将来を見越して計画的にお金と付き合えるようにならなければなりません。

金融広報中央委員会が募集した「おかねの作文」コンクール、昨年は全国から2,554点の作品が寄せられ、60点が入賞作品に選ばれました。これらの作品も参考にしながら、自分の回りで「見たこと」「聞いたこと」「感じたこと」をもとに、自分自身の意見をまとめてみましょう。



第51回（2018）受賞作品の紹介

過去の入賞作品はこちらでご覧いただけます。
https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_sakubun/

金融担当大臣賞

「まぁいっか」のお金
福岡県 筑紫女学園中学校 ３年
吉満 愛子さん

作品の内容 筆者は、夏休み1カ月間の資金として親から3万円を渡されます。1日の予算は塾への交通費を除く500円。当初は余裕だと思いますが、1週間後には支出超過になり、お金の使い方を見直します。①決まった金額のみ財布に入れる、②レシートを記録して無駄をチェックする――という2つのルールを毎日実践し、「まぁいっか」のお金を減らすことが有益な使い方に繋がると結びます。「失敗を重ねながら、金銭感覚を身に付ける過程がよく書かれている」と評価されました。

受賞者の声 私はこの作文を書くにあたって、日々の生活の中で自分がお金を無駄にしていたことに気づかされました。社会人になったら、今よりもお金を有益に使っていく必要があります。もっとお金について学び、これからもお金と上手く付き合っていきたいと思います。

文部科学大臣賞

身に染みた"稼ぐ"ということ
茨城県 茨城大学教育学部附属中学校 ２年
根本 桜樺さん

作品の内容 筆者は小学6年生のとき、イベントで友人たちとクレープ屋を開き、仕入れから売り上げ管理まで全てを自分たちで行いました。最初は「いらっしゃいませ」と言うのも恥ずかしかったものの、お金を稼ぐ大変さを知り、1日働いて手にした給料900円は眩しく感じました。お金には「生き方や社会参加の仕方」も大きく関わっており、「1円も無駄にしてはいけない」と決意します。「体験に基づく気付きから、お金と社会との関わりにまで考察が広がっている」と評価されました。

受賞者の声 「お金を稼ぐということがいかに大変か」という体験は、今でも自分の中で鮮明に残っています。今回、お金の作文を書くことで、1円の重みを再確認することができました。これからも、今の気持ちを忘れずに無駄遣いをしないようにしていきたいです。

日本銀行総裁賞

小さな落とし物が広げた世界
広島県 広島大学附属東雲中学校 ２年
平尾 紬希さん

作品の内容 筆者の弟が通う保育園で、園児たちが散歩中に「魚のメダル」を拾います。それは海に囲まれたアイスランドの10クローナ硬貨でした。筆者は他の国の硬貨も調べるうち、お金はその国の自然や歴史を表すものだと気付きます。また、アイスランドに興味を持った園児たちがたくさんの学びを得た様子を見て、物を買うだけではない「お金の力」を強く感じます。「物としてのお金からグローバルな話に展開していく点がおもしろい」と評価されました。

受賞者の声 作文を書くにあたり新しく知ることが沢山あり、ある出来事から疑問をもち、調べるという姿勢を学びました。また、日々何気なく起きていることが、人々を繋げ世界を広げることができると気づきました。これからは、お金とも人とも生活とも、しっかり向き合って生きていきたいです。

日本PTA全国協議会会長賞

金銭感覚にも個人差はある
宮崎県 都城市立祝吉中学校 ２年
坂元 華恋さん

作品の内容 筆者の家では、4人の妹や弟たちに対して、ごみ出しや洗濯物干しなどのお手伝い1回ごとに報酬を渡す夏休み限定のルールが作られました。報酬を得た弟妹のお金の使い方が変化したのを見て、筆者は、両親がお金の大切さや使い方を考えさせるために企画したのだと気づきます。自分も「お金の使い方を見直し、両親に感謝して、当たり前のことにもしっかり取り組みたい」と結びます。「お金のルールを通じて家族観や両親への感謝が伝わってきた」との評価を得ました。

受賞者の声 この作文を書いたときに、お金の大切さだけでなく、人によってお金に対する価値観が違うことや、私を育ててくれている両親に対する感謝の気持ちに気づくことができました。これからもこの気持ちを忘れずにお金を正しく大事に使っていきたいです。

金融広報中央委員会会長賞

人生の道をつくるものとは
新潟県 新潟大学教育学部附属新潟中学校 ２年
古泉 修行さん

作品の内容 夏休みの研修で訪れたカンボジアのある地域は、水道が未整備で、貧困家庭の子供は遠くの川まで水汲みに行くため、学校へ通えません。この現実に衝撃を受けた筆者は、日本で井戸建設のための募金を呼びかけます。自らも世界の子供の夢の実現のために募金すると決意し、「日本で勉強に励めることに感謝し、自分の力を発揮できるよう全力で生きる」と結びます。審査員は、「貧困など世界的な問題を、自分の体験を通じてしっかりと考えている」と評価しました。

受賞者の声 自分の個性を活かして生きるために必要な、日本の教育制度や安定した生活。それを支える、一見、目に見えない縁の下の力持ち的なお金の重要性を、他国に行き実感しました。平和な日本に生まれたことに感謝し、自分の力を発揮すべく全力で生きます。

秀作

夢への四百五十万円
神奈川県 カリタス女子中学校 ２年
佐々 ひなたさん

借金をかえす
愛知県 愛知教育大学附属名古屋中学校 ２年
髙木 美優さん

「活きたお金」の使い方
広島県 広島大学附属東雲中学校 ２年
野村 綾さん

「おかね」に込められた思い
熊本県 熊本大学教育学部附属中学校 ２年
廣川 拓飛さん

500円玉の重み
静岡県 沼津市立今沢中学校 ３年
村上 陽風さん

学校賞

茨城県 茨城大学教育学部附属中学校
新潟県 新潟大学教育学部附属新潟中学校
広島県 広島大学附属東雲中学校
福岡県 筑紫女学園中学校
宮崎県 都城市立祝吉中学校

第51回 審査員（敬称略）
大原 育明（金融庁総合政策局総合政策課課長補佐）　青木 隆一（文部科学省初等中等教育局視学官）　東川 勝哉（公益社団法人日本PTA全国協議会会長）
新飯田 潤一（全日本中学校国語教育研究協議会会長）　大澤 裕次（日本銀行情報サービス局金融広報課長）　加藤 健吾（金融広報中央委員会事務局次長）

応募の注意点

●文字数について　空白を含む1,600～2,000字（参考文献・出典は含みません）

原稿用紙で書くなら	400字詰め原稿用紙 ※タテ20字×ヨコ20行	パソコン原稿で書くなら	1行20字詰め ※1枚につき30行以内

◎作品募集ホームページ（https://www.ron2019.jp/）にある応募用原稿用紙をご利用になることもできます。

●応募について

個人で応募する場合	・下記応募用紙に記入してください（応募用紙はコピー可）。 ・作品タイトル、氏名（ふりがな）、学校名（ふりがな）、学年、学校および自宅の住所、電話番号、FAX番号を記入して作品に添付してください（応募用紙は必ず本人が記入してください）。
学校単位で応募する場合	・学校宛てにお送りしています**学校専用応募用紙**にてご応募ください（学校専用応募用紙はホームページ＜**https://www.ron2019.jp/**＞からダウンロードすることもできます）。 ・下記応募用紙（個人用）は不要です。

◎応募は未発表の作品に限ります（インターネット上での作品公開も発表とみなします）。また、二重投稿はご遠慮ください。　◎日本語に限ります。　◎作品は理由を問わず返却しません。
◎入賞作品の著作権・版権は主催者に帰属します。　◎佳作の作品は公表しません。
◎作品公表の際には個別企業名や商品名に関する表記を変更させていただくことがありますので、予めご了承ください。

作文を書くにあたってのご注意

・本文冒頭1行目に作品タイトル、2行目に学校名、学年、氏名を記入してください。本文は3行目から始めてください。
・規定文字数に達しない作品は審査の対象となりません。
※原稿用紙によらないパソコン原稿の場合も同様です。
・各ページにページ番号を記載し、右肩をホチキスで留めてください。

参考文献の明記

・参考にした文献（書籍、インターネット等）はすべて、作文の最終ページに必ず記入してください。記入せずに他の人の文章を使用することは「盗用」とみなされてしまうことがあります。

引用するときの注意点

・他の人の文章は、なるべく使用しないようにしましょう。
・どうしても使用したいときには、引用する文章は変更せず、かぎ括弧をつけて自分の文章と明確に区別したうえで、作文の最終ページに必ず出典を記載してください。
・かぎ括弧や出典の記載をせずに、インターネット等で入手した他の人の文章を書き写して作文を作成することは「盗用」とみなされてしまうことがありますので、注意しましょう。

本文冒頭の記入方法

○1行目　作品タイトル
○2行目　学校名、学年、氏名
○3行目～　本文

作品タイトル
●●市立●●中学校　3年　金融　太郎

（記入例）

参考文献・出典の記入方法

〈最終ページ〉
書籍の場合
○枚目○行目（応募作品中該当箇所）、著者名、『書籍名』、出版社名、出版年、参照または引用したページ
インターネットの場合
○枚目○行目（応募作品中該当箇所）、著者名、タイトル、URL、閲覧日

〈出典〉
○枚目○行目～○行目、金融広報中央委員会
『きみはリッチ？　―多重債務に陥らないために―』
○○○出版、二〇一七年十一月、六ページ：
カードのはなし
○枚目○行目～○行目、金融広報中央委員会
「金融用語解説：エコマネー」
https://www.shiruporuto.jp/education/data/container/yogo/a/eco_money.html
閲覧日二〇一九年七月十九日

（出典の記入例）

※応募の際は、下記個人情報の取り扱いについて保護者の方にもご確認いただいたうえでご応募ください。

個人情報の取り扱いについて●応募者の個人情報は、入賞作品の選考、入賞者への連絡のためにのみ使用し、主催者および当コンクール業務受託先が責任をもって管理します。●応募者本人または保護者の許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。ただし、法律や法的拘束力のある命令等に基づいて開示が要求された場合については、その要求に応じることがあります。●入賞者の氏名・学校名・学年および作品の一部は、金融広報中央委員会ホームページ等にて公表させていただきますので、予めご了承ください。

キリトリ

第52回「おかねの作文」コンクール　応募用紙（個人用）

作品タイトル		
ふりがな 氏名	ふりがな 学校名 立　中学校	学年 年
学校住所　（〒　－　） 都道府県　市区郡		
学校電話番号　（　）　－	学校FAX番号　（　）　－	
自宅住所　（〒　－　） 都道府県　市区郡 ※マンション、アパート名等も必ずご記入ください。		
電話番号（日中連絡の取れる先）　（　）　－	FAX番号　（　）　－	

下記のアンケートにご協力ください。
◎このコンクールはどちらで知りましたか。番号を○で囲んでください。（複数回答可）
1.ポスター　2.チラシ　3.新聞や雑誌（媒体名　）　4.ホームページ　5.知人から　6.学校　7.その他（　）

※応募者の個人情報は当コンクール以外の用途には使用しません。